

事業所名 グループホームうずき
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月13日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 高等学校非常勤講師、訪問指導員
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター、健康生きがいづくりアドバイザー
B:現職 社会福祉法人生活指導員、居宅介護支援事業所管理者
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・特別養護老人ホームやデイサービスセンター、ヘルパーステーションなどが併設されており、関連の医療法人も隣接している。周りには、住宅や様々な生活関連施設があり、生活に便利な環境である。ホームは、木材など自然のままの素材がふんだんに使われた造りで、外周には、代表者や入居者が焼いた愛嬌のある表情の塩輪やハトの焼き物が置かれている。
- ・法人内にある地域交流スペースでは、年間を通して様々な行事が催され、グループホームの入居者も参加しており、地域住民との交流の機会が多い。法人のお祭り、「うずき祭り」も年2回開催されており、近隣住民も多数参加している。
- ・玄関先には、テーブルやイス、ベンチが置かれ、天気の良い日には外でお茶を飲んだり、食事をしたりしている。桜の木の下でのお花見や満月の夜のお月見は、毎年の恒例行事になっており、入居者の楽しみ事のひとつである。建物周辺には、桜や花ミズキ、季節ごとの花、夏にはひょうたんが植えられ、四季折々の変化を感じることができる。外気に触れる機会が多く、温度・湿度・換気などの環境に配慮し、入居者の健康な生活を支えている。
- ・昨年の外部評価の結果を受けて、地域に密着したサービスを展開することを年間の目標に挙げ、課題であったくつろぎのスペースの確保など、サービスの質を向上させる取り組みを展開している。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・入居者の高齢化や身体機能の低下により、こちらから出向いていく機会が年々減りつつあるようだが、職員は、入居者自身が地域に出かけて行く機会をもっと増やしていきたいと考えている。また、グループホームとしても、地域社会へのアプローチを目標に掲げており、今後さらに地域住民との交流の機会が増えることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) ・少人数の家庭的な環境の中で、入居者一人ひとりが必要な援助を受けながら、自立した生活が送れるよう支援している。 ・入居者が、自分らしく、安心して、尊厳のある生活が送れることをめざし、職員は公平なサービスを提供することと資質向上に向けて努力している。 ・入居者の家族や、ボランティアの協力も得ながら、入居者が地域の中で住民とのつながりを持ちながら生活していけることをめざして支援している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) ・入居者皆に同じ事をしてもらうと、一人ひとりの能力にはらつきがあり、できないことで不安やストレスを感じ、落ち着かなくなることもあり、入居者それぞれの力量に応じて役割を分担し、自分のペースでできることに取り組んでもらうように配慮している。 ・個別の対応を心がけており、一人の方に関わりすぎて他の入居者に差別感や孤独感が生じないよう、外来受診時等、1対1になれる機会にゆくりと対応する時間を取るようにしている。 ・入居者一人ひとりの状態に合わせた対応の仕方を職員で検討し合い、取り組んでいる。夜間、不眠になり、頻回に部屋から出て来られる入居者に対しては、制止せず、話し相手をしたり、一緒にお茶を飲んだり、頻回に見回りをするなどの対応をしており、最近では落ち着いてきたとのことである。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ・プライバシーの保護のため、面談時にはカードに記入してもらい、他の家族や外来者の目に触れないように配慮している。 ・人前であからさまに介護をしたり、誘導の声かけで本人を傷つけてしまわないよう心がけており、排泄の介助は大きな声では行わず、目立たずさりげなく誘導している。 ・入居者の得意な事や、生活歴を大切に支援を行っている。昔、保母をされていた入居者は、歌や手先を使う作業が得意で、経験を活かした役割を生活の中で持ち、今ある力を発揮しながら生き生きと暮らしている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ・法人内で、ヒヤリハット、安全対策、感染症対策、環境、衛生管理、レクリエーション等10項目の各種委員会を設けており、グループホーム職員も参加して入居者の安全・安心な生活のために取り組んでいる。 ・事故が発生した時には、速やかに報告書を作成し、事故原因の今後の予防・対策について職員間で話し合い、再発予防に努めている。 ・職員は、法人内や外部の研修に参加し、知識技術の習得に努めている。同法人の職員が、外部で研究発表する時には、法人内で予行演習を兼ねた発表会を開催して意見交換をするなど、お互いに勉強し合い、法人全体で介護水準を高めている。 ・年間を通して、季節に合わせた行事が多く採り入れられている。実施後は、必ず評価を行い、次のサービスにつなげている。		